

街道を歩く

伊勢参宮街道：06六軒一松坂市街一金剛橋一上川町



市場庄
もとは下ノ庄。醍醐寺領曾弥庄といわれる街道沿いには茶屋、旅籠が並び賑わったという。妻入りの家が建ち並ぶ。

忘れ井
齊王の群行が一志頓宮あたりに来た時に女官の一人 甲斐が詠んだ歌碑がある古跡。
"別れゆく 都のかたの恋しきに
いと結びみん 忘れ井の水" 千載集

松ヶ島城址
伊勢の国司北畠氏が信長の伊勢進攻の防備のために築城したのが始り。北畠氏が滅んだ後信長の次男信雄が天正8年(1580)松ヶ島城と改称。五層の天守閣を築く。天正10年(1582)本能寺の変で蒲生氏郷入城。まもなく四五百森、松坂に解体移築した。寺、住民も移ったという。このとき参宮街道はこの辺りを通っていたが松坂を通る内陸よりに変更された。

松ヶ島町
松ヶ島城址

長泉寺
伊勢の国司北畠氏が信長の伊勢進攻の防備のために築城したのが始り。北畠氏が滅んだ後信長の次男信雄が天正8年(1580)松ヶ島城と改称。五層の天守閣を築く。天正10年(1582)本能寺の変で蒲生氏郷入城。まもなく四五百森、松坂に解体移築した。寺、住民も移ったという。このとき参宮街道はこの辺りを通っていたが松坂を通る内陸よりに変更された。

藤堂藩の城代家老や御殿医を勤めた家。
久米
長屋門のある家
庚申堂



薬師寺 (天台宗)
本尊薬師如来坐像
聖武天皇勅願寺との伝え。
信長と北畠氏の大河内城合戦の講話条件として信長の次男茶筌丸(信雄)が北畠氏の養子となり永禄12年(1569)から3年間ここで過ごす。北畠氏の息女と近くの船江城で祝言を挙げ大河内城に移る。承応2年(1653)徳川頼宣の助力で再興。本堂と仁王門残る。

常夜灯
船江

松坂商人の館 (小津家)
江戸時代の豪商小津清左衛門住宅
祖先は北畠氏一族、木造家に仕えた三好隼人佐長年。創業は3代目長弘、江戸に紙店、木綿店(伊勢屋)を開き津に紙店営業。

三井家発祥の地
三井家の祖高利の祖父高安は近江佐々木氏の武将、三井越後守。信長との戦いで敗れて伊勢松ヶ島の郷土となる。高利は松坂で商売を覚え、延宝元年(1673)江戸日本橋に越後屋八郎右衛門とし店を開く。三越の始まり。「現金掛値なし」の商売が成功。この地には五輪塔、供養塔、高利産湯の井戸が残る。

旅籠新上屋跡
宣長と賀茂真淵の会った場所「松坂一夜」の舞台

樹敬寺 (浄土宗)
本尊木造地藏菩薩
県下屈指の大伽藍を誇っていたが明治26年3月全焼。本居家の菩提寺。曾祖父、宣長、妻お勝、子春庭夫婦の墓がある。宣長の遺体を埋めた墓は西南6km、山室山如来寺の奥山にある。ここは参り墓。

松坂城址
天正16年(1688)蒲生氏郷がここ四五百森に築城。急いで造ったので寺の墓石まで使われている。氏郷は楽市楽座を採用、各地から商人を呼び寄せ職人町をつくり、海岸よりであった。参宮街道を城下町に引き込み商人町松坂の発展の基礎を築く。氏郷は小田原攻めの功で会津42万石に転封。服部采女正一忠が3万5千石で入城。秀次事件で切腹自害、代わって古田兵部少輔重勝入城。元和5年(1619)以降は紀州藩徳川家に属し伊勢18万石を支配する城代がおかれる。

宣長記念館
鈴の屋
御城番屋敷
紀州藩下級武士屋敷跡

日野の道標
管相寺
小津安二郎青春館

庚申堂
信楽寺
門前に仏足石
天明5年(1785)

金剛橋
この辺り徳和

常夜灯
文政2年(1829)建立
四ツ又

龍泉寺 (真言宗)
愛宕さんで親しまれる。本尊将軍地藏ながら神として祭る。JR徳和駅。愛宕権現と呼ぶ。神仏習合の色彩残る。山門は松ヶ島城の城門移す。近くに古田治部正少輔重勝の墓がある。

日野町交差点道標

下村町
八柱神社
通上川
上川町
外宮4里

紀勢本線

常夜灯
女人の供養塔

夜中に宿を追い出され途中臆病な大男と一緒に、松坂の木賃宿で一夜史跡多い松坂を見学もせずに出る
"驚も輪になりて舞ふ日ぞ
たびの人おどり出たる
松坂の宿"